

【様式1】 平成29年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	飛騨市	学校名	飛騨市立宮川小学校			
校長名	佐名木一浩	対象学年	全学年	人数	15	人
活動名	ふるさと学習		時間数	50時間	継続年数	14年
題材	<p>1 自然環境 (山野) (河川) 動物・(植物) その他) [ナチュール研修、白木ヶ峰登山、稚鮎の放流、あじさいロード保全運動、写生大会]</p> <p>2 歴史 (出来事・史跡・先人・その他) []</p> <p>3 文化 (芸能)・芸術・(民話) (風習) その他) [民謡古大尽、版画カレンダー、そば打ち体験、郷土料理作り]</p> <p>4 地場産業 (農業) 水産業・伝統工芸・その他) [稲作体験]</p> <p>5 地域との積極的な関わりをつくる活動等 [町民運動会参加、文化祭参加、感謝の会]</p> <p>6 その他 () []</p>					
複数年継続するための工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ふるさとを愛する心とふるさとに貢献しようとする態度を養うことを、全ての教育活動の基盤に位置づけている。また、一つひとつの活動の成果を検証し、内容などを改善して取り組んでいる。 児童の活動のようすを「学校だより」にまとめて、お世話になった方や町内全戸に配布し、成果を報告するとともに、宮川小学校のふるさと教育について理解を求めるようにしている。 3学期には、体験学習などでお世話になった方や地域の人々を招待して、感謝の気持ちを伝えたり成長した姿を見ていただいたりするために「感謝の会」を行っている。地域の人々とのつながりを作り、卒業後もその絆を大切にしている。 					
<p>1 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさとの豊かな自然と永い歴史や、ふるさとに根ざし、伝統を大切にしながら宮川町の発展を願って努力してみえる方々の思いについて学ぶことを通して、ふるさとを愛する心を育み、ふるさとに貢献しようとする態度を養う。 <p>2 活動の概要</p> <p>① ナチュール宿泊体験学習・・・ (14年目) [資料1] ・そば打ち体験 ・稚鮎の放流 ・郷土料理作り</p> <p>② 白木ヶ峰登山・・・・・・・・ (5年ぶり2回目) [資料2]</p> <p>③ 宮川古大尽・・・・・・・・ (7年目) [資料2]</p> <p>④ 稲作体験・・・・・・・・ (7年目) [資料3]</p> <p>⑤ アジサイロードの保全・・・・ (7年目) [資料3]</p> <p>⑥ 版画カレンダー制作・・・・ (14年目) [資料4]</p> <p>⑦ 宮川町民運動会参加・・・・ (以前より) [資料4]</p> <p>⑧ 宮川町文化祭参加・・・・ (以前より) [資料4]</p> <p>⑨ 感謝の会・・・・・・・・ (14年目)</p>						

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

(1) ナチュラル宿泊体験学習（高学年3泊4日、中学年2泊3日、低学年1日）

① ナチュラル宿泊体験

宮川町内の体験型宿泊施設を利用して、親元を離れて児童だけで食事を作ったり掃除をしたりして生活しながら、いろいろな体験学習を行っている。

②「そば打ち体験」では、地元『万波そばの会』の方々を講師にそば打ちを教えていただき、地元の特産について学ぶとともに、町おこしのために高い志を持って活動してみえる方々の思いを学ぶことができた。

③「稚鮎の放流」では、鮎の稚魚を放流する体験を通して、稚鮎が琵琶湖から運ばれてくることがや、きれいなコケを食べて大きくなること、宮川は全国的にも有名な鮎の友釣りのスポットであることなどを知り、身近な自然と産業について学ぶことができた。

④「郷土料理づくり」では、『飛まわり会』の方々から、宮川の伝統的な料理について教えていただき、作り方を習って自分たちで調理した。古くから伝わる山菜おこわやけんちん汁に加えて、飛まわり会で新たに考えた、揚げイワナのあんかけなどを作り、一緒に試食した。料理を通して宮川町野人々の絆を深めようとする願いを学ぶことができた。

(2) 白木ヶ峰登山

宮川町と富山県にまたがり、校歌にも歌われる「白木ヶ峰」に、4年生以上の児童と保護者が登山した。「ふるさとの山に一度は登らせたいたい。」という保護者の強い願いをもとに、地元の自然案内人（インタープリター）、森林管理事務所、警察などの協力を得て実現することができた。事前に、白木ヶ峰周辺の植物や動物などについて講話を聞くとともに、登山の際のマナーなどについて学習した。行程は大変であったが、全員山頂にたどり着くことができた。家の周りでは見られない高山植物を見たり、遠く富山湾を望んだりしながら、宮川町の奥深さを感じることもできた。

(3) 宮川古大尽

宮川町に伝わる民謡『古大尽』の手踊り、笠踊りを「宮川伝統芸能保存会」の方から指導していただき、町民運動会や文化祭で披露した。伝統芸能を大切に守り伝えていこうとする人々の思いを学ぶことができた。また、学校の活動以外にも伝統芸能保存会の活動に進んで参加して一緒に練習に励む児童も現れた。

(4) 稲作体験

高学年の総合的な学習で「宮川町の食と文化」をテーマにして、その一貫として稲作体験を行った。学校の近くで米作りをしている方を講師に、代かき、田植えから、稲刈り、脱穀といった作業を体験した。自分の家でお米を作っていない児童も増えている中で、モミからお米ができるまでの過程を知るとともに、米作りの大変さや食べ物のありがたさを学んだ。収穫したもち米は、3月の感謝の会でもちまきに使う予定である。

(5) あじさいロードの保全活動

国道360号線沿いに植えられているアジサイは、その昔、宮川町に誇れるものを作りたいという人々の願いから始まったということを知った。現在その活動の中心になっている方に指導していただき、アジサイの苗の育て方を学んだり、学校の裏の道路沿いに苗を植えたりする活動を行った。

(6) 版画カレンダー制作

地域の方を講師に招き、宮川町に伝わる民話をテーマに版画を彫り、それをまとめてカレンダーを作り、全戸に配布している。子どもらしい感性で作ったカレンダーは地域のみなさんに好評で、毎年待ち望んでみえる方が多い。地域の人々の喜ぶ声を聞くことで、地域のために貢献できたという自信につながっている。

(7) 宮川町民運動会

元々、宮川小学校の運動会であったが、児童数の減少もあり、地域の運動会として幼児からお年寄りまでが参加して宮川町の一大イベントとなっている。児童は少ないながら、元気いっばいの姿や一生懸命に演技する姿を町民の方に見ていただくことで、元気を届けることを目標にしている。また、世代を超えた人々が集うことでつながりができ、ともに宮川町を盛り上げていこうとする気持ちを分かち合うことができた。

(8) 宮川町文化祭

宮川町の文化祭に全校で参加して、合唱や古大尽を披露した。文化祭でもいろいろな世代の方がたくさん集まっており、その中で児童ががんばっている姿を発表することができた。また、青年団の人と一緒に合唱したり、青年団の劇に児童が参加したりして、次の時代を担っていく若者と交流を図ることができた。

(9) 感謝の会

ふるさと学習に関わっているいろいろお世話になった方々や、日頃自分たちを見守ってくださっている地域の方々を学校に招待して、感謝の気持ちを伝えることを目的とし、学習の成果を発表したり、ふるさとの民話劇を演じたりする予定である。また、稲作体験で収穫したもち米を使ってもちまきも行う。感謝の気持ちを伝えるとともに、名前や顔を覚えてもらい、つながりを強くして「これからもよろしくお願いします。」という気持ちを伝える会になることを目指している。

4 活動を通しての児童生徒の変容

(1) いろいろな体験や活動を通して、改めてふるさとの自然の豊かさや伝統文化の豊かさを認識する児童が多く、それを守っていききたいと願う児童が増えた。児童の感想の中には、「宮川町にはなにもないと思っていたけど、日本中に誇れる山や川があることがわかった。」といった言葉もあり、ふるさとに自信と誇りをもつきっかけになった。

また、永年継続している活動については、上級生が下級生に指導する姿も見られ、活動が定着していることが感じられた。

(2) ふるさと宮川を愛し、その素晴らしさを次の世代に伝えたいと願う人々の思いに触れて、感謝の気持ちをもつとともに、小学生としてできることはないか考え、何か地域のために貢献できることをしたいという声が上がってきた。その一貫として生活委員を中心に、地域の人々にあいさつをしようという運動を行っている。地域の人々に顔や名前を覚えてもらい、つながりをつくることができた。

また、町民運動会や文化祭では、例年宮川町在住の中学生や高校生のがほとんどがボランティアとして運営に協力しており、重要な役割を占めている。小学校からのふるさと学習の効果もあり、卒業しても地域の行事や活動に協力したいという意識が根付いている。

(3) 3月に行われる「感謝の会」に向けて、お世話になった方や地域の方を招待して成長した自分たちの姿を見てもらいたいという願いをもって取り組みを始めている。恒例になっている版画カレンダーのプレゼントに加えて、劇を披露したりもちまきをしたりといろいろなアイデアを出し合って喜んでもらおうという気持ちが高まっている。